

# 測定評価専門領域

大蔵倫博（筑波大学）、萩裕美子（東海大学）、小林秀紹（札幌国際大学）、石原一成（福井県立大学）、林容市（法政大

## 1. あらまし

平成 13 年、体育・スポーツの測定評価に関する学術的研究及び教育の向上を図り、測定評価に関わる体育学研究の充実に寄与する目的で日本体育測定評価学会を設立した。平成 28 年 2 月時点の会員数は 319 名である。

### ■学術誌（学会機関誌）

和文機関誌『体育測定評価研究』を毎年 3 月末に発行している。

英文機関誌『Human Performance Measurement』を発行。平成 28 年度は Vol. 13（平成 28 年 4～12 月）と Vol. 14（平成 29 年 1～3 月）を発行する予定である。

### ■学会大会（年 1 回開催）

平成 28 年度は大分県において第 16 回大会（平成 29 年 3 月 5 日）を開催する。研究発表した者の中から上位 1 割程度が「優秀発表」として表彰される。なお、日本体育学会大会における測定評価専門領域での発表も同様に表彰される。

### ■学会賞・奨励賞

「学会賞」は日本体育測定評価学会の機関紙に掲載された最優秀論文に授与される。また、「奨励賞」は優れた論文（著者が 35 歳未満）1 編に授与される。

### ■研究助成

日本体育測定評価学会の会員歴を 3 年以上有する者を対象として、1 件あたり 10～30 万円の研究助成が行われる。採択件数は年度により異なる。

### ■倫理審査

日本体育測定評価学会の会員が研究代表者である研究計画（ヒトを対象とする研究）について、申請があれば倫理審査をおこなうことができる。

## 2. 内外の研究動向

波多野（2009）によれば、本専門領域の名称である測定評価は、1861 年にヒッチコックがアーマスト大学で形態測定に注力したことがその端緒であるとされる。本邦では、明治時代より学校教育を中心に形態測定、活力検査が実施されてきた。1964 年に文部省スポーツテストが制定・実施され、その年には日本体育学会において測定評価専門分科会が発足した。我が国の測定評価の学問領域は多くの研究者によって取り組まれ、エビデンスが重視される今日において体育学、スポーツ科学、健康科学の基礎を支えてきたと言える。2016 年 2 月、日本体育測定評価学会シンポジウム「測定評価のためのテスト開発」

ではスポーツスキルや心理状態、子どもの運動能力など、種々の領域におけるテスト開発について議論がなされた。2016年8月の日本体育学会では「映像・データ」「調査データ」の分析方法に関する取り組みについてシンポジウムが行われる。近年、世界的なセンシング技術やデータ分析手法の発達によって効果的な情報処理がより重視されるようになり、今後測定評価の学問領域は多様なニーズとともにますます発展すると期待される。

### 3. 科学的知見の応用の状況

本専門領域では、幼児から高齢者、学校体育から社会体育、競技スポーツ、健康づくり、介護予防に至る様々な対象者やフィールドによる研究が実施されており、そこから得られた最新知見は、学校、地域、競技スポーツ現場、健康増進施設、病院・介護施設などで有効活用されている。例えば、超高齢社会となった我が国では認知症予防が喫緊の課題と言われているが、当学会和文機関紙に「高齢者の認知機能を簡便に評価する手法（大藏と尹、2014）」が発表されている。その後、本法はいくつかの施設で活用されており、研究と知見の応用（社会実装）が直結しやすいことも本専門領域の特徴の一つと言える。

### 4. 学校体育や大学体育に活かすべき最新知見

池田と青柳（日本体育学会、2014）は小学校5・6年生を対象に、授業開始前に10分間の中強度の有酸素運動を実施すると一過性に認知機能が向上することを報告した。落ち着いて授業に臨むために、授業前に実施する有酸素運動が有効であることを示唆する本報告は、心身のバランスを整える上で身体活動が有効であり、現場の教師にも有益な知見になると考えられる。また大学体育に資する研究として、角田ら（日本体育学会、2015）は一般体育で行われている「卓球」の技能評価に着目し、60秒間のラリーテストが有効であると報告した。一般体育において何をどのように評価するかは重要である。特に技能評価については本人自身が向上を自覚でき、今後のスポーツ活動にも有効に働きかけるような評価が望まれる。本知見は簡便で客観的な評価方法として有用であると思われる。

### 5. 若手研究者へのメッセージ

測定評価という学問領域は、様々な測定や統計処理によって体育・スポーツ科学を支えるだけでなく、多様なニーズに基づく様々な研究分野に貢献できる可能性が広がっている。若手研究者には、研究を進めるにあたって自分が興味・関心を持っている研究がこれからどの様に社会の役に立つのか？を十分に意識した上で、他の領域の研究者との柔軟なコラボレーションを積極的に実現して戴きたい。その際、日本体育測定評価学会前会長である出村（2007）の著書が参考になるであろう。“測定評価”が若手研究者の研究を深化させ、優れた研究成果が実践～応用へと発展的に繋がっていくことを期待している。

### 6. 引用文献

波多野義郎（2009）米国における体育測定評価学略史(1861-1964)と日本の初期測評学発達に関する一考察. 日本体育測定評価研究, 9:1-11.

出村慎一（2007）健康・スポーツ科学のための研究方法. 杏林書院：東京.

(2016年9月1日執筆)